

海外邦人安全対策情報（定期報告：平成25年度第2四半期）

1. 社会・治安情勢

昨年6月のイエメン政府軍によるアル・カーイダ掃討作戦により、アル・カーイダは本拠地としていたアビヤン州の各都市から周辺諸州に逃走しました。その後も各地に潜伏するアル・カーイダ分子による政府軍・治安部隊施設等に対する自爆攻撃、軍・治安当局者の殺害及び誘拐、外国人に対する誘拐・殺害事件等のテロ活動を継続して行ってきました。

本年に入り、3月18日に国民対話会議が開幕し、イエメン全土の警備体制が強化されたことから、アル・カーイダのテロ活動は一時下火になっていましたが、4月以降、ハドラマウト州・アビヤン州等でテロ活動を再開しています。またアル・カーイダは外国人誘拐事件への関与を続けており、7月～9月中にもサヌア市内だけでもイラン大使館外交官誘拐事件、米国人（英国籍も有する）記者誘拐事件などが発生しています。（誘拐したスイス人女性、フィンランド人夫妻、オーストリア人男性を解放する際得た身代金等がアル・カーイダによるテロ活動の資金源となっているとの見方があります）

2012年における政府軍及び治安部隊要員の殺害件数（内務省発表）は、首都サヌアで18件、ラヘジ州で15件、ハドラマウト州及びタイズ州で各々10件、ダーリア州で6件、アデン州、ベータ州及びアビヤン州等で7件でした。

また2012年にオートバイを使用した殺害件数（内務省発表）は、全国で66件のぼり、政府軍及び治安部隊要員を標的とした殺害事件の約95%がオートバイを使用したものであり、政府軍及び治安部隊要員40名、一般市民4名が殺害されるとともに、国軍及び治安部隊要員21名及び一般市民9名が負傷しました。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 当国における一般犯罪発生統計については、2012年版の統計資料が未発表のため、2011年版イエメン政府発表の一般犯罪発生統計に基づき、当国における凶悪犯罪を含む一般犯罪の現状については、以下の通りです。

2011（平成23）年中に発生した殺人事件発生件数は1393件（殺人未遂を除く）（前年比24%増）、強盗事件発生件数は471件（前年比7.5%減）、放火事件発生件数は254件（放火未遂を除く）（前年比15.1%減）、強姦事件発生件数は145件（強姦未遂を除く）（前年比27.5%減）、誘拐事件発生件数は220件（前年比35%増）、窃盗（住居等侵入）事件発生件数は2049件（前年比18.7%減）、窃盗（自動車盗）事件発生件数は1182件（前年比20.2%増）となっています。殺人、誘拐などの凶悪犯罪及び自動車盗の発生件数が激増していることがわかります。人口10万人当たり換算した一般事件発生率では強盗、放火、強姦事件は日本と同程度ですが、殺人事件については日本の約6倍、誘拐事件については日本の約8倍と、いずれも日本に比べて

高い発生率となっています。一方、窃盗（住居等侵入）事件発生率は日本の約1/2分の1、自動車盗事件の発生率は日本の約1/4です。（警察庁刑事局刑事企画課発表、平成23年1月～12月分犯罪統計資料【確定値】に基づく）。また当国の特徴の一つとして、銃器が市民に広く浸透しており、これら銃器がイエメン人同士の争いに使用されるケースが多々存在することから十分な注意を要します。2013年に入り、イエメンの将来の方向性を決定づける国民対話会議が3月18日から開会し、それに伴い、治安当局による昨年以上の重層的な警備体制が敷かれていることもあり、一般犯罪発生件数は横ばいまたは減少傾向になるとみられていますが、引き続き注意を要する治安状況です。

（2）平成25年7月～9月中の邦人被害にかかる一般犯罪については、9月に当地在留邦人所有の車両に対する部品狙い（ナンバープレート盗）事件が発生しています。同事件は、被害者である当該在留邦人がイエメン国外へ旅行中に発生した事件です。犯人グループは、白昼堂々、路上に駐車中の当該車両のナンバープレートを窃取し、さらに車内を物色中、同邦人のイエメン人運転手に発見され、逃走したものです。組織的な自動車等窃盗グループがいるとの情報もあります。過去に邦人が巻き込まれた犯罪例としては、邦人に対して親しげに話しかけ、観光案内資料の購入を持ちかけ、後になって法外なガイド料を要求したり、当国の治安当局関係者であると装って近づき、一瞬の隙を見て財物を窃取する等の事件及び女性に対する痴漢事件等が報告されています。以上の点から、個人旅行者は、親しげにすり寄ってくる現地人に注意すると共に、いわれのない金品の請求には断固とした態度をとって拒否する姿勢が重要です。また他の事例として、当地の比較的安価な価格のホテルに投宿した邦人旅行者が就寝中、突然何者かが同人居室に侵入し、所持品を窃取されるという事案も発生しています。部屋の出入口ドアの施錠等についても細心の注意が必要です。なお、平成25年10月7日現在、当国全土に渡航自粛・退避勧告が発令されています。

（4）当地の交通事情については、車両最優先であり、2011（平成23）年中のイエメン政府発行の交通事故統計資料によれば、交通死亡事故による死者数は2152人（前年比27.3%減）であり、日本と比べて人口10万人あたり約2倍となっています（日本における2011（平成23）年中の交通事故死亡者数は4612人）。交通マナーはほぼ皆無であり、信号無視、速度超過、通行区分違反（逆走）、右左折時の方向指示器不使用等の交通違反は枚挙にいとまがありません。道路を通行する際には、細心の注意が必要です。

3. テロ・爆弾事件発生状況（平成25年7月～9月）

（1）7月1日、サヌア市内ハサバ地区地方行政省前において車両で走行中の司法省技術系幹部がバイクに乗った2人者に襲撃され、死亡しました。

（2）7月1日、ホデイダ州海軍基地において爆発物（携帯電話による起爆）が発見され、不発処理されました。

(3) 7月1日、アビヤン州アフワル郡において、アル・カーイダ武装グループが現金輸送車を襲撃しました。兵士2人、アル・カーイダ分子2人が死亡、8人が負傷しました。

(4) 7月2日、アビヤン州シュクラ市軍第115旅団の検問所において、アル・カーイダ分子が仕掛けたと見られる爆発物が爆発しましたが、負傷者はありませんでした。

(5) 7月2日、サヌア市内マズバフ地区にある旧第1師団兵舎(「3月21日公園」予定地)南口で大きな爆発がありました。兵士1人が重傷を負いました。爆発物を仕掛けた犯人は不明です。

(6) 7月3日、ハドラマウト州ムカッラ市において、政治治安総局(PSO)士官が、アル・カーイダと見られるバイクに乗った2人組に襲撃され、死亡しました。

(7) 7月3日、アビヤン州ラウダル郡において、爆発物2個が発見され、うち1つが爆破したものの、死傷者はありませんでした。

(8) 7月7日から8日にかけての24時間内に、マアリブ州ダマシュカ地区において、4度の送電線への破壊活動がありました。

(9) 7月6日午前、サヌア市内ハサバ地区内務省近くのハッパーリ交差点において、機動隊パトカーに仕掛けられた爆発物が爆破し、兵士3人が死亡しました。

(10) 7月6日、サヌア州ニフム地区において、送電線への破壊工作があり、マアリブ発電所が稼働停止しました。

(11) 7月8日、ベータ州において、マカイラス郡治安部長(中佐)車列が武装グループによる襲撃を受けました。本人は難を逃れましたが、警備兵1人が死亡しました。

(12) 7月8日、ハドラマウト州クトン郡においてアル・カーイダと見られる武装グループが第37機甲旅団砲兵大隊長(Sahli 大佐)を襲撃し、殺害しました。

(13) 7月11日、ダーリア州の南部ヒラク運動のムハンマド・タドル・アッジバーリ副議長が武装集団により殺害されました。

(14) 7月13日、マアリブ州において、覆面をした武装集団が312部隊を奇襲し、312部隊の軍人2人が死亡し、3人が重傷を負いました。

(15) 7月15日、ハドラマウト州において、190空挺旅団がシャヒール橋を渡ろうとしたところ、爆弾が爆発しました。死傷者はなし。アル・カーイダが背景にいると見られます。

(16) 7月16日、サヌア市内繁華街ハーイル通りとラッカーズ通りの交差点付近において、爆発物が発見されましたが、治安部隊により不発処理されました。

(17) 7月21日、サヌア市内大学広場近くのラバト通りにおいて、軍事学校幹部のアブドゥラー・フセイン・アルミフダール准将の自動車に取り付けられた爆弾が爆発しました。同准将は重体です。

(18) 7月21日、ベータ州ワラド・ラビーウ地区において、同地区警察署長がバイクに乗った武装集団により銃殺されました。一緒にいた息子は重傷の由。

(19) 7月23日夜、ラヘジ州において、武装集団が政治治安総局の建物をRPGで攻

撃しました。負傷者はありません。

(20) 7月24日、サヌア市内ラバト通りと16通りの交差点において、バイクに乗った2人が手りゅう弾2発を投げ、2人が重傷です。

(21) 7月25日、ラヘジ州フータ地区において、政治治安総局支部近くでIEDが発見され、治安組織によって取り除かれました。

(22) 7月25日、アビヤン州において、政治治安総局の敷地近くでIEDが爆発しましたが負傷者等はありません。

(23) 7月25日、マアリブ州ワディ・オベイダ地方アルカイン地区において、石油パイプラインが破壊され、ホデイダ州のラス・エイッサ港へ送る石油が止まりました。

(24) 7月28日、ラヘジ州において、武装集団がRPGを地方評議会の背後の建物を狙って発射しました。犯人は逃亡しました。負傷者等はありません。

(25) 7月29日、ラヘジ州フータ地区警察が、情報機関のそばに置かれていたIEDを見つけ、事前に爆破を阻止しました。

(26) 7月29日、ラウダ地区南部郊外において、爆発物処理班によりIEDが撤去されました。

(27) 7月29日、サアダ州サハル地区において、地雷が爆発し女性2名が重傷です。

(28) 7月31日、アデン市内ホルマクサル地区において、何者かが **Mercure Hotel** 近くの検問所を目標けて手りゅう弾を投げ、軍人1名が負傷しました。

(29) 8月1日、サヌア市内ハッダ地区ハミード・アフマル家裏において、トヨタ車に乗車した武装集団が同宅警備員を撃ち逃亡しました。

(30) 8月2日、サアダ州サアダ市ズベイリ・モスク近くにおいて、同場所に設置された爆破装置が発見され、治安部隊が解除しました。

(31) 8月2日、マアリブ州ダマシュカ地域において、武装した部族関係者が送電線を破壊し、マアリブ発電所が閉鎖に追い込まれました。

(32) 8月2日、アビヤン州ラウダ地区及びハンファル地区で人民委員会が2つのIEDを発見しました。ともに爆発物処理班により取り除かれました。

(33) 8月3日、マアリブ州ダマシュカ地域において、武装した部族関係者が石油パイプラインを破壊し、サファー製油所からホデイダ州ラス・イーサ港へ向かう石油輸送が停止しました。

(34) 8月4日、ラヘジ州において、ラドファン地区警察署長が武装した男に銃撃されましたが逃げ延びました。同所長の警護官が負傷し犯人は後に逮捕されました。

(35) 8月5日、シャブワ州アタク地区において、武装集団が旧与党GPCの建物目掛けて発砲しました。

(36) 8月5日、サアダ州サフラ地区において、ホーシー派武装集団が塹壕を掘っている間に爆弾が爆発し、複数名が死亡しました。

(37) 8月5日夜、マハウィート州タウィーラ郡ムラービド村において、モスクに爆弾

が投げこまれ、1名が死亡し、12名が負傷しました。

(38) 8月6日、ラヘジ州ラドファン地区において、武装集団がパトロール中の軍の車を銃撃しました。軍人4名が死亡し、1名が負傷しました。

(39) アル・カーイダによるテロを警戒し、米英仏独蘭が大使館を一時閉鎖しました。米英蘭は一部の大使館員を国外退避させました。8月18日までに全ての公館が一部業務を再開しました。

(40) 8月7日、ハドラマウト州アルカトン地区の検問所において、軍人の車に取り付けられたIEDが発見され、除去されました。

(41) 8月9日、アビヤン州カウザ地区において、人民委員会のワリード・ムハンマド委員長がトヨタのハイラックスに乗ったテロリストに銃撃されましたが難を逃れました。犯人は逃走しました。

(42) 8月10日、シャブワ州アタク地区において、武装集団が検問所を襲撃しました。軍人5名が死亡しました。犯人は逃走した由。

(43) 8月10日、ラヘジ州フータ地区において、武装集団がイブン・ハルドゥーン病院目がけてRPGを発射しました。建物が損傷しましたが負傷者はありません。

(44) 8月10日、ラヘジ州フータ地区において、武装集団が発砲の上パトロール中の軍事車両を強奪しました。車に乗っていた軍人1名が殺害され、3名が負傷しました。

(45) 8月10日、ラヘジ州カブサ地区において、軍人と軍事車両を奪った武装集団の間で衝突が発生しました。軍人2名が死亡し、3名が負傷しました。

(46) 8月11日、サヌア市内バラカ地区において、警察署近くに置かれたIEDが発見され、治安部隊により撤去されました。IEDはジャマール通りの主要な商業地区の近くに置かれていました。

(47) 8月11日、アデン州において、車に乗った武装集団が地方議会の建物の警備員目がけて発砲しました。軍人2名が負傷し犯人は逃亡しました。

(48) 8月11日、アビヤン州ラウダ地区において、アル・カーイダと思われる武装集団目がけて人民委員会のメンバーが発砲しました。

(49) 8月11日、シャブワ州ヌデイシャ地区において、検問所がアル・カーイダのメンバーが乗った車2台により襲撃されました。少なくとも7名が死亡しました。

(50) 8月11日、ラヘジ州フータ地区において、軍事車両を奪った武装集団と軍人の間で衝突が発生しました。軍人2名が死亡しその他10名が負傷しました。

(51) 8月、ペーダ州において、政治治安部隊のムハンマド・ナーセル・アルマーマリ大佐がバイクに乗った2名の武装集団により殺害されました。武装集団は消音装置付銃を用いて同人宅前から襲撃し、そのまま逃走しました。

(52) 8月13日、サヌア市内ベイルート通りファッジ・アターン地区において、サウジ大使館文化担当オフィスのアリー・サミーリー博士の事務所が銃撃されました。銃弾は事務所の椅子を貫通し、壁に命中しました。同銃撃による負傷者等はありません。

(53) 8月15日、ラヘジ州ホダバ地区の検問所において、軍人が武装集団に銃撃され重傷をおいました。

(54) 8月16日、サヌア市内タハリール広場クッバ・ムタワッキル・モスクにおいて、爆破用のベルトを持ち、広場で自爆テロを実行しようとしていた2名のアル・カーイダのメンバーが逮捕されました。取り調べによると、2名は政府が週休を木金から金土に変更したことがユダヤ教に準じたものだと抗議して、広場で自爆テロを行おうとしていた由。

(55) 8月19日、サヌア市内ハブラ市場で男が爆弾を爆発させ、本人が死亡しました。その他複数名が負傷しました。

(56) 8月22日、サヌア市内国会中庭において、爆発物が発見されましたが、治安部隊により不発処理されました。また、同日サヌア市内シュウーブ地区において軍装甲車が爆破されましたが、死傷者はありませんでした。

(57) 8月24日、サヌア市内ハフダ地区において、国防省幹部（大佐クラス）が自室で殺害されているのが発見されました。アル・カーイダが暗殺の首謀者である可能性があります。

(58) 8月24日、アデン州マンスーラ市において、武装グループが政治治安局幹部（大佐クラス）が所有する車を追跡・発砲し、停車させました。同幹部本人は乗っていなかったことから、運転していた同幹部の息子を殴り逃亡しました。アル・カーイダ分子が事件の背後にいると見られます。

(59) 8月24日、アビヤン州ラウダル郡山岳地帯において、爆発物を爆破し、組み立て中であったテロリスト（18才）が死亡しました。

(60) 8月25日、サヌア市内サヌア国際空港に向かう幹線道路（60m道路）上において、空軍所属バスを狙った爆破事件が発生し、空軍兵士2人が死亡、29人が負傷しました。

(61) 8月25日、サヌア市内バグダッド通りにある米語学学校「Ya li」周辺において、ライマ州出身の20代の若者が語学学校入り口を右往左往しているところを怪しまれ捕らえられたところ、時限爆弾4個を所持していました。

(62) 8月25日、サヌア市内60M道路「イーマーン大学」前において、2台の車に乗った武装グループが乗用車を襲撃、1人が死亡、3人が負傷しました。攻撃はジョウフ州出身の部族長（Ali Al Ajji）を狙ったものと見られ、Ajji部族長は死亡しました。

(63) 9月5日、ラヘジ州ハウタ郡において、オートバイに乗った2人組が政治治安総局退役大佐を襲撃し同大佐を殺害しました。また、6日ハド라마ウト州クトン郡において同じくオートバイに乗った2人組が政治治安総局大佐を襲撃、同大佐を殺害しました。2件ともアル・カーイダの犯行と見られます。

(64) 9月9日、サヌア市内北東部サアワーン地区及び空港道路沿いの軍大校前の2カ所において、空軍バスを狙った爆破が2件発生したが死傷者等はありませんでした。サアワーン地区の爆発は歩道の樹木脇に設置された爆発物によるもので、個人所有の小型ト

トラックが破損しました。

(65) 9月13日、ハドラマウト州アルカトン郡において、アル・カーイダが35旅団に属する軍事施設を攻撃しました。軍人7名が死亡、複数名が負傷しました。

(66) 9月14日、マアリブ州ワディ・オベイダにおいて、また同15日、同州サルワーフ郡において、石油パイプラインが爆破されました。同パイプラインの爆破は今月に入り6回目です。

(67) 9月16日、サヌア市内において、バーズィーブ運輸相の車が武装集団により銃撃されました。負傷者はありません。治安機関が事件の詳細を調べていますが、発砲は運輸省近くの高い位置から消音機付の銃で行われた模様です。なお、同大臣の暗殺未遂事件は、大臣就任後6回目です。

(68) 9月16日、ベータ州ラダーウ市の北及び西にある93師団所属の検問所2か所において、爆弾を積んだ2台の車が押収されました。両車両とも種類はスズキのVITARAで、西部検問所では運転手が逃亡しようとした際に殺害されました。

(69) 9月16日、アデン州において、トラック（ナンバープレートなし）に乗った武装集団が、アデン国際空港の滑走路を襲撃しました。空港関係者によれば、武装集団は空港西部の警備に当たっている第39旅団の軍人を目掛けて無差別に発砲し逃亡しました。死傷者はありません。

(70) 9月16日、ハドラマウト州シバーム郡において、治安組織とアル・カーイダのメンバーの交戦により、アル・カーイダのメンバー1名が負傷しました。アル・カーイダは迫撃砲5発を軍事施設に向けて発射し、民間人1名が負傷、施設の一部が損壊しました。

(71) 9月20日、南部シャブワ州において、アル・カーイダによるテロが2件発生し、少なくとも40名が死亡しました。

(72) 9月20日、シャブワ州の軍事施設において、自動車爆弾により約30名の軍人が死亡しました。負傷者多数。また、同日マイファ郡で武装集団が特別治安組織を攻撃し、軍人10名が死亡しました。

(73) 9月22日、サヌア市郊外の検問所において、軍服を満載したトラックが押収されました。検問所の軍人が内務省に確認したところ、右軍服輸送に関する指令は出されていないため、現在同トラックはサヌア市の特別治安部隊に差し押さえられました。過去2年、イエメンでは軍服を着て行われる犯行が起きています。

(74) 9月22日、南部アデン州のハーディ大統領自宅付近において、爆弾が発見されました。爆発物処理班が駆けつけ、爆弾は撤去されました。

(75) 9月24日、サヌア市内の軍事病院前において、軍事病院の財務部長アリー・ダイラミー大佐がバイクに乗った男に銃撃され死亡しました。

(76) 9月24日、ラヘジ州フータ郡において、バイクに乗車したアル・カーイダのメンバーが地方議会を銃撃しました。治安部隊及び人民委員会のメンバーが抗戦し、アル・カーイダのメンバー複数名が負傷しました。

(77) 9月25日、シャブワ州都アタクの野菜・カート市場付近において、第26歩兵団のムハンマド・アハマド・サイディー大佐が自動車に仕掛けられた爆弾により暗殺されました。アル・カーイダによる犯行とみられています。

(78) 9月25日夜、シャブワ州ルドゥーム郡において、アル・カーイダのメンバーが第2陸軍旅団の基地を機関銃や爆弾等で攻撃し、軍人2名が死亡、複数名が負傷しました。

(79) 9月26日、サヌア市のタグイール広場近くのラバト通りにおいて、爆弾2発が爆発し、少なくとも41名が負傷しました。目撃者によれば、1発目の爆弾により5名が負傷し、その場に多くの人が集まってきた後に2発目が爆発し、多数の負傷者が発生しました。

(80) 9月28日、マアリブ州ハシーフ地区で行われた部族集会において、自爆テロにより3名が負傷しました。犯人はバイクで集会所へ乗り込み、自爆して即死しました。アル・カーイダによる犯行とみられています。

(81) 9月30日、ハドラマウト州都のムカッラにおいて、アル・カーイダのメンバーが第2軍区司令部の建物を襲撃し、少なくとも軍人11名が死亡、40名が拘束されました。テロ対策部隊により人質が解放されましたが、その際に少なくとも5名の人質となっていた軍人が死亡し、複数のアル・カーイダのメンバーが殺害され、テロ対策部隊3名が負傷した由。

(82) 9月30日、ハドラマウト州のシャヒル市において、捜査官が帰宅途中バイクに乗った何者かに銃殺されました。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況（平成25年7月～9月）

(1) 8月3日、マアリブ郡サーン・ジン地区において、武装集団が親族2名の解放を求め312旅団の高官を誘拐しました。

(2) 7月10日、サヌア市サブイーン地区において、サウジアラビア人が何者かに数時間拘束されました後、治安部隊によって解放されました。クウェート通貨の売買に関わる争いになり拘束された由。

(3) 7月21日、サヌア市内ハッダ地区イエメン・コマーシャル銀行支店付近において、イラン人外交官誘拐事件が発生しました。誘拐されたイラン人外交官はマアリブ州マアリブ市近くのアル・カーイダに属するとみられる武装集団のもとにいるとの報道あり。

(4) 7月23日、サヌア市内ハッダ地区韓国大使館付近路上において、韓国大使館官房館員が私用車で走行中に、正体不明の男らが乗車する車両に進路を阻まれ、ピストルで脅され車から無理矢理降ろされました。館員は頭を殴られたが軽傷。犯人らは当該韓国大使館員の車を強奪して逃走しました。

(5) 7月30日、サヌア市内ハッダ地区アッスルミ通りにおいて、2人のNGO職員が自動車強盗・誘拐未遂事件にあいました。NGO職員は現場から脱出し事なきを得ました。

(6) 7月、タイズ州において、軍人10人が誘拐される事件が発生しました。

(7) 8月1日、サヌア市内において、ハイラックスに乗った3人の武装集団が、駐イエメン・サウジアラビア大使館の運転手(イエメン人)を誘拐しようとしたが抵抗されたため発砲し同運転手が死亡しました。また、同運転手を助けようとした同僚1名が負傷しました。

(8) 9月17日、サヌア市内ズベイリ通り沿いにあるアルホダ・スーパーマーケットにおいて、米国人記者(英国との二重国籍)が武装グループに誘拐され、いずれかへ連れ去られました。誘拐された米国人は数年来サヌア旧市街に住み、複数の通信社のカメラマン記者として従事し、国民対話会議の通訳も務めていました。

(9) 7月11日、イエメン南部ハドラマウト州において、武装集団が観光バスを乗っ取り乗客16名、バス運転手のトルコ人2名を拘束しました。乗客全員は解放されましたが、トルコ人2名はそのままどこかへ連れ去られました。

(10) 7月21日、アデン州において、武装集団によりイエメン人ビジネスマンが誘拐されました。

(11) 7月30日、ハドラマウト州サイユーン地区において、トルコ人ビジネスマンが銃を持った何者かにより違法に設けられたチェックポイントで誘拐されそうになりました。同ビジネスマンは車のスピードを上げてチェックポイントを突破し、近隣の軍事基地へ逃げ込みました。

(12) 8月6日、アデン州ホールマクサル地区において、武装集団がヒラク南部運動の活動家を誘拐しました。

(13) 8月24日、ラヘジュ州カラシュ地区において、南部出身国軍兵士が給与未払いに抗議して国際赤十字委員会所属の車両を拘束しました。車両には国際赤十字委員会の外国籍の職員6人が乗車していましたが、説得により国際赤十字委員会職員は解放されました。

(14) 8月28日、ラヘジ州カッピータ郡において、南部出身兵士グループがスウェーデンNGO「児童保護のためのスウェーデン財団」所属の車両を停止させ、乗車していたスウェーデン人、パキスタン人及びイエメン人運転手を誘拐しました。

(15) 9月23日、アデン州において、アデン州政治治安機関の将校ジャード・アラウイーがナンバープレートがない車に乗った武装集団により自宅前から連れ去られました。周囲の住人が止めに入りましたが、犯人は空に向け発砲し逃走しました。

5. 対日感情

対日感情は総じて良好です。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

当地に現在日本企業は存在しません。

7. 日本人安全対策のためにとった具体的措置

(1) 在留邦人に対しては、テロ等重大事件が発生する都度、メール及び電話を通じて、治安情報の提供及び安否確認を行っています。

(2) 当地は現在渡航自粛・退避勧告が発出中であり、一般旅行者の来訪は想定されていませんが、それでもなお、自己責任の下で入国する邦人旅行者のことを視野に入れ、短期滞在者等が投宿する可能性が高い宿泊施設に対しては、日本人の宿泊利用があれば、即時に大使館に連絡するよう要請の上、連絡体制を構築しています。(了)